

私立大学情報教育協会
平成24年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース

D-1班

1

テーマ1

責任ある情報を公表するための
職員の役割

2

テーマ1:責任ある情報を公表するための職員の役割(1)

情報を公表する意義、目的

- 広報(志願者数の増加)
- 説明責任

情報公表の現状

- ミスマッチ
- 出したい情報しか出していない

3

テーマ1:責任ある情報を公表するための職員の役割(3)

教育情報の作られかた

課題:本当に外に出してもよいかどうかの判断が1部署に委ねられる(縦割り組織)(合意形成ができない)

公表する情報の作り方

- 何のために、誰に、何を伝えたいか明確にする
- 不利な事柄に対しても、どのような取り組みをしているかという視点で公表
- 情報を体系化することで意思を統一する(全てのステークホルダーへ)

4

テーマ2

学士課程教育の質的転換を図る
ための職員の役割

5

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

教育の質的転換の必要性

① 質的転換はなぜ必要か

■内部要因

教員の能力欠如
学修が不要なカリキュラム体制
自主的な学修環境の欠如
講義形式中心の授業体制
社会で通用する人材を育成する仕組みができていない

■外部要因

大学全入
グローバル化
日本の競争力の低下
産業界からの必要な人材の養成
社会からの求められる人材の育成
大卒に求められる人材の育成(高卒とは違う)

6

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

教育の質的転換のための準備

課題	必要な準備
大学入学者の入学動機・目的意識がない	目的意識を醸成するための仕組み作り
つきたい能力が身に付かない	重点科目の推進委員会等を作り、組織体制を整える、教員の教育力の向上
能力が身に付かないまま卒業してしまう	確実に能力をつけて卒業させるプログラムの確立
新入学生が大学の学びにスムーズに入っていない	高校時代の単位認定、高大連携の仕組みの充実 導入教育の充実
授業環境の整備が不足	授業評価アンケートの形骸化、 学生が自分の成績評価結果を聞ける仕組み、 物理的な環境作り(ハードウェアの充実)
学生ごとに能力差がある	プレースメントテスト等でレベル分けを行う

7

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

教育の質的転換におけるICTの活用

知識詰め込み型の学修であれば、伝統的なe-ラーニング(CAI)が有効

分野によってはe-ラーニングは有効(ディスカッションや教材配布)

職員が教員にe-ラーニングのメリットを説明し、教員が学生に説明できるようにする

学生の成長の見える化、個人の達成度の管理(電子ポートフォリオ)

部門を横断して情報を活用するためにICTが必要(つながりがあるデータ)

教室でのICT(クリックカー)の活用(学生からの反応が見れる)

教員からのフィードバックが必要

8

テーマ1、テーマ2に関する関係性

責任ある情報公表 ↔ 教育の質的転換

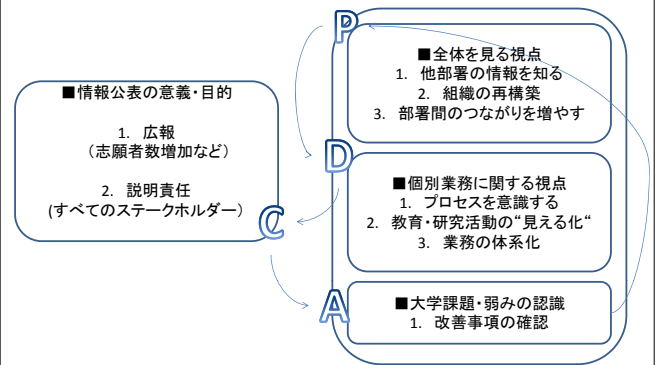
- 責任ある情報公表を通じて、大学の弱みや強みを認識し、教育の質的転換の動機づけとなる
- 学士課程教育の質的転換を図ることで、大学が自信を持って情報を公表出来るようになる

この繋がりを作るのが職員である！

9

テーマ1:責任ある情報の公表するための職員の役割

責任ある情報を公表するための職員の役割についてのまとめ



10

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割についてのまとめ

- カリキュラムの体系化を支援する
- 教員によるばらつきを是正するための支援
- 職員がデータを価値ある情報に変えて、教員と学士課程教育の質の向上に貢献する仕組みや場を設ける。(ICTを活用する)
- 教員の協力体制
- 教員が改革を行うよう促す体制を職員が担う。
- 教員を巻き込んで、質転換を促す。

11

今、職員として求められるもの

意識・姿勢

- 正しく誠実な姿勢
- ルーテンのみならず、マネジメントする姿勢
- 全体的な視点を持つ
- 経営していく意識
- プロセスを意識

能力

- 論理的な思考力(課題に対しての解決策を導くことができる)
- コミュニケーション能力(教員を巻き込めるような)
- 課題発見能力(社会のニーズをつかむ)

12